

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 95

学校名・団体名	周南市立和田中学校
HPアドレス	<a href="http://www.shunan.ed.jp/wadachu/">Http://www.shunan.ed.jp/wadachu/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	伝統文化継承を核としたふるさと学習の 深化・充実
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>和田地域には、国の重要無形民俗文化財「三作神楽」が伝承されている。小中学生が連携をとりながら、ふるさと学習を進め、その中で三作神楽を学習することは、ふるさと和田に愛着を持つと共に、心豊かに生きる心を育てることにつながる。また、少子高齢化による伝承の担い手不足を解消し、三作神楽を存続させる一助となることは、地域支援にもつながるものである。</p>	

## 1 はじめに

本校の「総合的な学習の時間」のテーマを「ふるさと和田」とし、このテーマのもと、今年度は、「和田学のスズメ」という視点で学習を展開した。1年生では、「ふるさと和田に学ぶ」、2年生では、「ふるさと和田に生きる」、3年生では、「ふるさと和田に貢献する」ことを目的に学習を進めてきた。その中でも、和田地域に伝承されている伝統芸能で、国指定重要無形民俗文化財「三作神楽」の伝承活動は、後継者不足に悩む地域の思いと、ふるさとへのよさを知り、ふるさとを大切に思う子どもたちの育成を目指す学校の思いが合致した教育活動になっている。

## 2 地域学習

### (1) 地域のお年寄りによる講話

5月に、地域のお年寄りを学校に招き、昔の家庭での生活の様子や学校の様子、お祭りや地域行事、当時の遊びなどについて話をしていただいた。このときのお話の内容から、11月に3年生が小学校に出向いて、「和田の年中行事を伝えよう」という題材で出前授業を実施した。

### (2) 和田地区周辺のフィールドワーク（約17km）

5月に、地域に点在している専照寺、三作神楽伝承館、月輪寺の3つの施設を班別に訪ねて、地域学習を行った。和田という地域ができた由来や歴史上の有名な人物のお話、伝承文化などについて、住職や保存会会長から話を聞き、ふるさとを知るきっかけづくりができた。

### (3) 観光ポスター、統計グラフづくり

和田地域をもっとよく知ってもらうための観光ポスターづくりを行った。班別の地域学習で撮ったふるさとの写真を基に、キャッチコピーを生徒たちで考えて立派なポスターを作成することができた。また、統計グラフづくりでは、和田地域にある農産物をテーマにしたり、人口減少をテーマにしたりする生徒が出てきた。

### (4) 味噌作り体験

2年生が、6月に地域の特産品の高瀬みその製造体験を行った。農産物加工センターで、米の段階から味噌を仕込んでいく過程を体験し、麴を混ぜたり、樽詰めを行い、10月には、完成した味噌を袋詰めして、文化祭で保護者や地域の皆さんにおすそ分けした。

## 3 三作神楽の伝承活動

伝承活動に取り組み始めて3年目となり、在籍する生徒全員が三作神楽に関わることとなった。兼ねてから小中連携も積極的に進めている関係で、グラウンドを挟んで隣接する和田小学校とも連携して、この伝統芸能に関する学習を進めた。

### (1) 三作神楽の指導

総合的な学習の時間を活用し、6月、9月、10月に体育館で行った。小中連携の活動としても取り組んでおり、小学5・6年生と中学生が三作神楽保存会の指導の下に三作神楽を学んだ。男子は舞や太鼓、女子は楽を中心に指導をいただいた。

### (2) 模範演技見学（卓の舞、恵美須の舞、長刀の舞、柴鬼神の舞）と実技指導

本物の神楽を見てもらいたいという保存会の思いがあり、6月のふれあい参観日の日に、模範演技を披露していただいた。4つの舞の力強さや勢い、滑稽な様子などを保護者と共に見学し、三作神楽の楽しさやさらなる上達への意欲をかきたてられるものとなった。

### (3) 三作神楽の披露

今年度は、へき地教育の中四国大会の開催校となっていたので、アトラクションとして披露したが、コミュニティ・スクール推進フェスティバルへの参加依頼も県から受けることとなり、生徒のこれまでの成果を市外や県外の多くの教育関係者にも披露する機会があった。

・小中合同文化祭（10月29日）

清めの舞、弓の舞

・周南市中学校音楽祭（11月8日）

弓の舞

・第5回中国・四国地区へき地教育研究大会山口大会並びに山口県へき地・複式教育研究大会

（11月17・18日）

清めの舞、弓の舞

・地域とともにある学校づくり推進フォーラム（山口CS推進フェスティバル）（12月17日）

弓の舞、卓の舞（保存会が演舞）

・和田中学校創立70周年記念誌完成発表会（2月18日）

弓の舞

#### 4 先進校視察

埼玉県にある久喜市立鷲宮中学校では、地域の国指定重要無形民俗文化財「土師一流催馬楽神楽」<sup>は・じいちりゅうきいばらかくら</sup>を地元の神楽保存会の願いを受ける形で、中学生に伝承保存する活動が進められている。本校と現状がたいへん似ていることと、歴史の古さに興味をもち、視察を行った。

はじめは、昭和55年の郷土芸能クラブで、平成5年には「郷土芸能部」となり部活動として取り組んでおられることに驚かされた。部員は、普段は別の部活動に所属しており、神楽をやりたいという生徒が週1回集まって指導を受けているそうである。

国民文化祭や全国神楽サミット、地域のテレビ取材等への出演や文部大臣奨励賞の受賞など、数多くの功績を残されており、地域の伝統文化を継承する過程において、学校だけでなく、外に発信していくことも大切な活動であると感じた視察となった。現在は、卒業生が神楽の後継者となって活動をしているという頼もしいお話も聞くことができた。

#### 5 成果と課題

##### (1) 成果

地域学習によって、地域の産業や歴史、文化等を知ることとなり、ふるさとを語れる生徒が増えてきているとともに、ふるさとをテーマにした学習活動（統計コンクールなど）に取り組む生徒もみられるようになった。また、多くの地域の方とのふれあいが増すことで、顔が見える関係となり、郷土愛を育むとともに、子どもを取り巻く環境の安心・安全につながってきている。

三作神楽の伝承活動では、多くの方に子どもたちと関わっていただき、学校内外での神楽の発表の際には、保存会の方が会場まで足を運んでいただき、衣装の着付けや背景画の設置等の準備もお手伝いいただいた。ただ指導されるだけでなく、自分たちの発表のために尽力していただいている地域の方を直に見たり、多くのお客さんの前で発表して大きな拍手をいただいたりすることは、他者への感謝の心を高めたり、ふるさとの伝統芸能を継承していくことの意義を見出したりすることに繋がってきている。

##### (2) 課題

和田地域は、少子高齢化の進む山間部に位置し、児童生徒も年々減少傾向にある。小中連携した中で、ふるさとを愛する子どもたちの育成や三作神楽の保存に力を注いでいるところである。三作神楽の伝承活動を始めて3年目となるが、卒業してもふるさとを思い、久喜市立鷲宮中学校のように、将来、生徒の中から神楽の後継者が出てくることが、現在の教育活動の評価になるのではないかと考える。そのために、生徒の意欲をかきたてる取組が不可欠であり、校外で披露することも含めて、生徒自身による伝承活動の活性化を図っていく必要がある。

また、神楽の発表では、衣装を着て舞うため、衣装のクリーニング代が必要になる。この財源をいかに確保できるかも大きな課題である。

#### 6 おわりに

ふるさとの良さを知る地域学習の中で、その中核となる三作神楽伝承活動は、小中で連携して取り組んで3年目となり、今年度は多くの場所で発表する機会ももてた。生徒も多くの称賛を受けてさらに意欲が高まってきている。来年度(平成29年度)は、三作神楽の式年祭の年に当たり、23の舞が奉納される。それに参加しようと意欲をもつ生徒も現れてきており、今後もふるさと和田を誇りに思う生徒の育成のため、地域学習や三作神楽継承活動を進めていくと共に、地域と共にある学校として地域支援を進めていきたい。



地域のお年寄りによる講話



中国・四国へき地教育研究大会



やまぐちCS推進フォーラム